

項目	説明	
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	ニボルマブ単剤療法を受けた切除不能または転移性胃癌患者の治療前 PNI の予後への影響
	研究目的	2017 年に進行胃癌または食道胃接合部癌患者におけるニボルマブ単剤療法の有効性が実証され、現在日本では胃癌の 3 次以降の治療として保険収容されています。しかし、多くの患者の治療効果は PD(病気進行)であり、予後も不良です。そのためニボルマブ導入前にどの患者に対し、より治療効果が望めるかを調査することは重要です。一方、癌の進行は栄養状態の悪化を来し、治療効果を低減させ、生存率を悪化させます。予後栄養指数(PNI)は栄養状態、免疫能力の指標として広く使用されていますが、ニボルマブ単剤療法前の PNI と切除不能進行癌または転移性胃癌の予後との関連性は不明のままです。この研究の目的はニボルマブ単剤療法を受けた胃癌患者の予後に対する治療前 PNI の影響を明らかにします。
	研究対象者	2015 年 10 月から 2019 年 12 月までに当院においてニボルマブ単剤療法を受けた切除不能または転移性胃癌患者 110 人を対象としました。組織学的に胃または食道胃接合部腺癌、転移性または切除不能癌、ニボルマブ単剤療法の既往とし、腺癌以外の癌腫は除外しました。
	研究期間	西暦 2020 年 8 月 14 日 ~ 西暦 2022 年 3 月 31 日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)	<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物(尿・便) <input type="checkbox"/> その他(記載して下さい) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録	
試料・情報の 管理について の責任者	当センター 研究責任者	渡邊勇人
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診 療科/部局等	消化器外科
	共同研究の場合、共同 研究機関および各施設 での研究責任者	なし